

造園デザイン

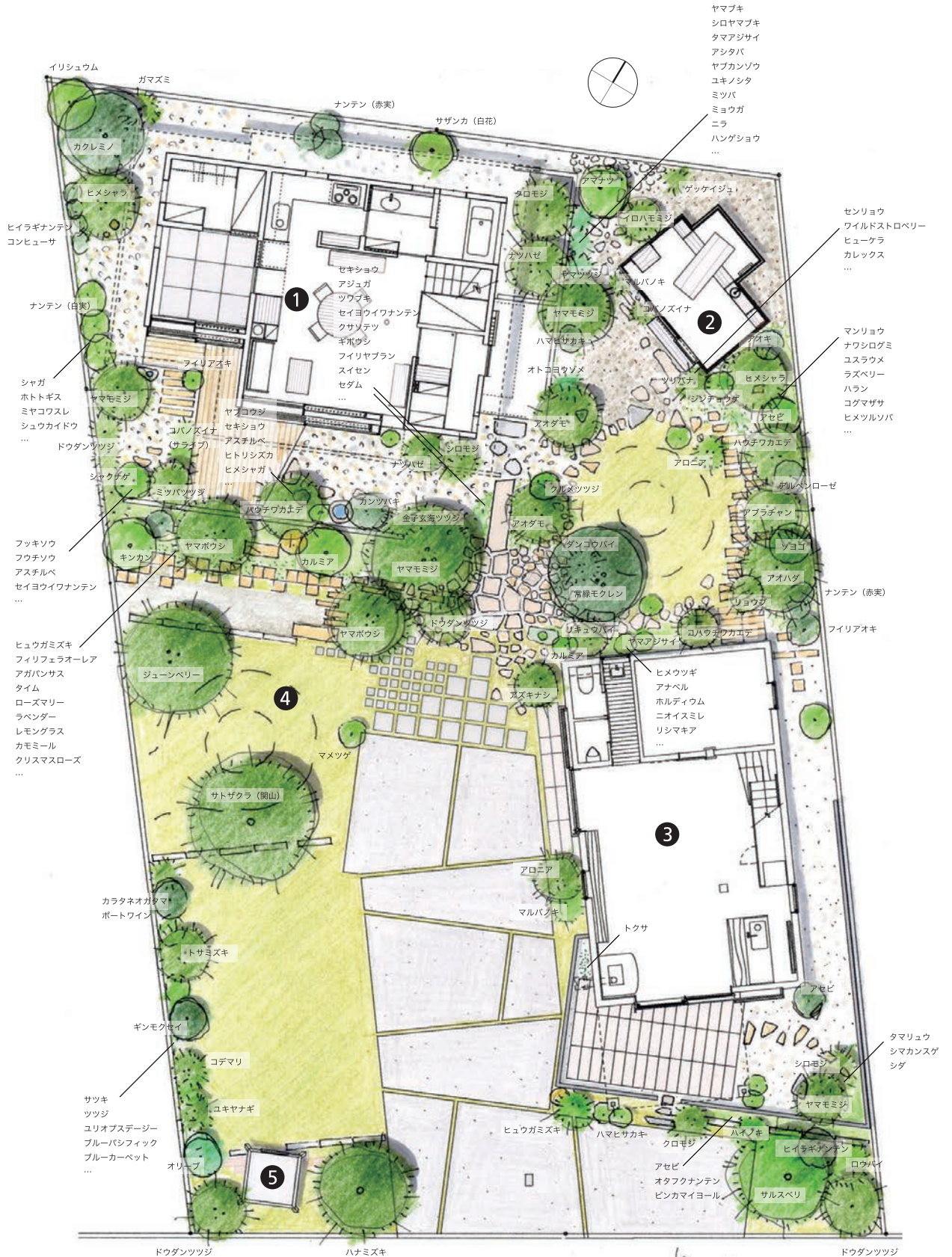
Landscape



「つむじの庭」

春の盛り、4枚の総苞を十字に広げるハナミズキ。「つむじ」のシンボルとしてエントランスを彩り、その先「ドミノ」の前には地域のサロンとなるような屋外の広間が広がっています。ハナミズキと同じ時期に咲くサトザクラ「関山」は、花びらを塩漬けにして桜湯に用いる品種。ここは「食」をひとつのテーマにした庭。続いて実の恵みを頂けるジューンベリー、ヤマボウシ、足元に目を向ければブルーベリーやハーブも。雑木の中を進むと、水辺のような清々しい風が通る「i-works」の庭、日本のハーブと呼びたい野草や赤い実をつける木にこだわった「舎庫」の庭。つむじの中は住宅の庭にお薦めする150種を越える植栽がひしめく小さな街。四季折々の風景を楽しめる散策の庭がお迎えます。

- ① i-works2015
- ② 舎庫（しゃこ）
- ③ 3階建て木造ドミノ住宅
- ④ 造園デザイン（敷地全体）
- ⑤ 巣箱



ヤマブキ
シロヤマブキ
タマアジサイ
アシタバ
ヤブカンゾウ
ユキノシタ
ミツバ
ミョウガ
ニラ
ハンゲショウ
...

センリョウ
ワイルドストロベリー
ヒューケラ
カレックス
...

マンリョウ
ナワシログミ
ユスラウメ
ラズベリー
ハラン
コグマザサ
ヒメツルソバ
...

ナンテン（赤実）
フィリアオキ

タマリユ
シマカンスグ
シダ

石は土の上に置くだけ、草木は、ここに来ていただくだけ



自然の素材だけを使って、石は土の上に置くだけ、草木には、ここに来ていただくだけ。そんな庭づくりをしたいと思います。「i-works」の庭と「舎庫」の庭では、塀やデッキの建築的な要素を除いた屋外スペースは、コンクリートやモルタル、人工の素材は持ち込まずに、土を盛って山をつくり、またその土を削って石を敷き、剥き出しの大地の恩恵を大切に風景をつくりました。きっと石のテラスの目地や栗石の隙間から、様々な雑草がでてくるとは思いますが、そこには食べられる草や、思いもなかった綺麗な景色をつくってくれる草花もあるはずです。



「食」を提案する庭

実の収穫、新芽のおひたし、葉っぱの天ぷら、香草、防腐作用のある葉、爪楊枝になる枝——。植物を目と舌で楽しみ、「食」を感じることは、身近な環境を想う大切な経験です。



「石」が持つ豊かさ

日々、季節毎に変容していく植物と、遅々とした変容を遂げていく石がつくり出す、そこに行けばいつでも出会えて、でも変わっていく風景。その「安らぎ」と「ときめき」こそが、庭の魅力。



地域の人、つくり手同志。みんなで作った庭。

例えば、変わらない石のテラスと動かせない大きなシンボルツリー。そこに気軽に模様替えができる要素があると、庭の楽しみは格段に増えると思います。季節の草花の植え替えはもちろん、低木で、数年に一度動かした方が元気になる木もあります。土を動かしたり、庭の砂利を並べ替えたり、小粋な小石を増やしたり。「つむじ」の庭は地域の皆さんの手もお借りしてつくってきました。造成の残土を用いた丘づくりは、屋外の「家具」をつくる行為でもあります。そして、これからも庭づくりの楽しみを味わえる様々なイベントを企画し、皆さんと味わい、愉しんでいきたいと考えています。

Special feature

地域の皆さん、(株)秋津園芸、Koizumi studio、相羽建設(株)



小林賢二氏の器も「つむじ」で展示販売

庭の草木をヒントに生まれた器や、身近にある自然を感じ愉しむキッチンに、との想いから作り出された草木を入れる「道草の器」。

DATA

場所：東京都東村山市久米川町 4-34-6 つむじ

規模：565.19 平米 (170.62 坪)

竣工：2016.3.15

造園計画：小林賢二